

代表ご挨拶

*****目次*****

P1	今号の TOPICS	大沢 金呉
P2	仲間たちの近況報告 (1)	
	1 班	谷殿 美佐恵
	2 班	堰口 義明
P3	仲間たちの近況報告 (2)	
	3 班	原 司
	4 班	太田 由紀子
P4	専任幹事ご挨拶	中澤 重文
	リレー随筆	小畑 孝二
P5	私の玉手箱	前田 長治
P6	写真コーナー	大森 美子
P7	樹形ウォッチング	遊上 眞一
P8	絵画コーナー	下浦 美代
	川柳コーナー	竹山 秀規
P9	俳句・	池田 清
	川柳コーナー	山上 恵子
P10	新人紹介	

◇自然と文化だより◇

前号でウクライナ侵攻を取り上げましたが、今回も話題に取り上げざるを得ません。すでに開始から4ヶ月が経ち、両国合わせ万単位での死者に及んでいます。その中には何の罪もない一般市民、子供が含まれています。平和な日本で殺人が起これば、大騒ぎとなり、報道されます。戦争であれば、仕方ないで済むのでしょうか？侵攻を決めたプーチン大統領の罪は途轍もなく大きく、裁かれるべきです。

日本を取り巻く環境は、中国、ロシア、北朝鮮など、予測不能な国に囲まれており、予断を許せず、将来を見据えた議論を活発化する事が大切です。

Y.T



コロナ禍でのちょっぴりうれしいこと

代表 大沢 金呉

老若男女誰もがマクク超しに二つの目だけがギョロリとのぞいて(こういうのを匿顔と呼ぶらしい)、互いに表情が読み取れなくなった世の中に今、住んでいます。

コロナ感染が長引く間に春夏秋冬は、二巡し、私も代表を仰せつかって4年目を迎えますが、就任2年目からは活動の中止や順延が続きました。我々シニアの多くが3回のワクチン接種を受けました。当人のためでもあります、大切な家族や友人の安心のためです。もう慣れましたが、どこへ行っても笑ってしまうぐらい嚴重です。入口で手指を消毒し、体温を計り、人と人とのソーシャルディスタンスをとり、マスクは外せません。会話は小声で食事は黙食、公共交通機関では黙乗。マスクを外す許しが出るのは飲食時だけです。テレワーク、オンライン会議も「ニューノーマル」になりました。

そんな2020年の暮れのある日、同期入科のAさんが脳梗塞で倒れて重篤な状態だというニュースが飛び込んできました。果たして通常な生活に復帰できるだろうか心配でした。それから1年半足らずの間に驚異的な回復をされて、この4月から自然と文化科に復帰を果たされました。電動車椅子での移動のため、まだすべての活動に参加されるのは無理かもしれませんが、すごいことです。この間のご本人の復帰に向けたリハビリのご努力と執念には頭が下がります。また、リハビリ中の友人たちや自然と文化科の仲間の支えは、大いに励みになったと思います。長引くコロナ禍であちこちが壊れてしまった中で、Aさんを取り巻く友人関係が濃厚に保たれていることを知ったのはちょっとした喜びでした。

今後、Aさんがどれほど回復されるかは分かりませんが、体の機能が回復していくごとに喜んでやればよいと思っています。毎回同じことの繰り返しになりますが、人は人と人とのつながりで生きています。自然と文化科はそれを提供できる場であつたらいいないつも思っています。

最後に自然と文化科の課題は山積しています。大所帯のまま組織の構成員の避けられない高齢化、新入科員数の減少、それに伴う役員個人への負担の増加、役員のなり手がいない、大所帯での活動、などなど。特効薬はありませんが、過度に個人に頼るのではなく、個々の科員が自覚してみんなで少しずつ責任を分担してくれるような組織体制が必須でしょう。

みなさんと一緒に議論を続けながら、みんなが居心地の良い組織づくりを目指していきたいと思っています。

比叡山の麓にて

1 班 谷殿 美佐恵

4 月の初め、うららかな春の日に比叡山の麓の町坂本を訪ねた。

満開の桜と美しい石垣が私を迎えてくれた。町のいたる所に石垣、石垣、石垣・・・

「石の声を聴き、石に従う」自然石を巧みに組合わせてつくる穴太積み
の石垣だ。自然と調和して技術のみがいた先人の営みに心を打たれる。



30 分程歩いて、聖徳太子によって創建された西教寺に行く。唐門からの琵琶湖を望む景色はすばらしい。織田信長の比叡山焼き討ちの被害にあったが、その

後、坂本城主になった明智光秀によって復興されたと聞く。境内の光秀・内室熙子の墓に手を合わせ、戦いのない世の中の実現を切に願う。

山の辺の道を歩いて、日吉大社へ。巨樹が茂り、水路が巡らされた広い境内には、いくつもの社殿が建ち並び、東本宮に



は比叡山の山の神が、西本宮には奈良の三輪山の山の神が祀られている。山の自然にとけ込んだ日吉大社に、いにしえより自然を崇拝して来た祖先の姿を見る。

4 月から「自然と文化科」のお仲間にいれていた。だいた。「自然と人間」について先輩方から多くの事を学ばせていただきたい。

どうぞよろしくお願い致します。

偉大なる桜守の人々

2 班 堰口 義明

今年 3 月末に京とおうみ自然文化クラブの観察会で京都府立植物園に出かけました。桜品種見本園でイギリスの桜研究家であるコリングウッド・イングラムがカンヒザクラとマメザクラと交配させ「オカメ」を作ったと紹介された。鮮やかで愛らしい桜であつたらしい。後にチェリー・イングラムと呼ばれる彼が戦前日本で絶滅したと見られる品種の桜「太白」を里帰りさせた。このお話を聞いて、チェリー・イングラムの本を読んでみたくなり、ネットで探してみたが品切れもしくは定価の 1.5 倍の値段になっていた。図書館で探してみたら見つかりさっそく読んでみたら大変面白く、この内容を近況報告に書いてみようと思いました。

イングラムは最初鳥類研究家で日本への初訪問は 1902 年、21 歳の時で、彼はすっかり日本びいきになった。日本訪問で彼が一番惹かれたのは「自然と人が抜群の芸術的センスで調和している」姿だった。桜との出会いは第一次大戦後 1919 年新居「ザ・グレンジ」に転居したとき、新居に植えられた桜の大木 2 本が彼の目をとらえ、欧州ではまだ知られていない日本の桜を収集して庭に植樹し研究しようと思い立った。猛烈な実行力で桜を収集した結果、7 年後には 100 種類を超すコレクションをもつ壮大な「桜園」が誕生した。しかし 1926 年に 3 回目の訪日をしたが、1923 年に起きた関東大震災で「桜園」は破壊され、その復興事業により近代的なビルが林立し、東洋の街並みは消滅し、伝統文化は近代化の波の中で失われつつあった。イングラムは「日本の大切な桜が危ない」と危機感を抱き、桜を英国に持ち帰って保存しようと決意した。そして各地の桜を見つけ穂木を英国に送ってもらう様にお願いした。イングラムは桜行脚の時に東京の桜守、船津静作氏と会い、「太白」の絶滅を知らされ、「太白」が自分の庭園にあることを知らせ、里帰りさせることを約束した。1927 年第 14 代



佐野藤右衛門宛てに船で穂木を送ったが 枯れ、5 年の試行錯誤の後シベリア鉄道でジャガイモに突き刺して送ったところ成功し、第 15 代佐野藤右衛門が接ぎ木して「太白」は祖国によみがえった。

こんなはずでは・・

3班 原 司

3年前の退職挨拶状に「自由、シンプルをモットーに」と書き、「なんでもいい世界平和につながる小さなことを」とぶちました。そして、この季節なら、さわやかな5月の風と、降り注ぐ明るい光の中で、白ワインを片手に友と談笑しているはずでした。それなのに現実、スケジュールに追われ、予定表の真っ白な週はほぼありません。世界のあちこちで

2022年5月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

理不尽な裸の暴力が人権を踏みにじっているというのになすすべがありません。病に倒れた友は、コロナ禍の中、会うこともままなりません。

半ば妻に強制されてシニア自然大学校に入りました。「木を見て森を見ず」にならないよう心がけ、「木を見ず森も見えず」になってしまったので、やり直そうと高等科に進みました。それでも森はまだはるか、同期の藤原さんに引っ張られて自然と文化科に入りました。ところが、班、委員会、同好会それぞれの観察会や講演会が次々とやってきて、自分がどれとどう関係していて何をしなければならないのか末だよくわかりません。またここは草木の裏側までとことん極める求道者たちの世界、とてもついていけそうもありません。ほかに、地球環境「自然学」講座は2年目ですが、内容が学術的で相変わらず荷が重いです。社会貢献をと万博ソラードの会にも入りましたが、モタモタした私が、すばしい子供たちについていけるわけがなく、「支援者が足りないからエントリーを！」という堀田代表の悲鳴に似たメールにも、まだ見習いの身で応えきれません。「自由・シンプル」とは程遠い近況に心はざわつくばかり、こんなはずではありませんでした。

けれども、思い直せば、この混沌は図らずもバランスがとれているようにも見えます。勝手な印象ですが、自然と文化科は、細かく深くの世界、自然学講座は広く高くの世界、ソラードの会は心で感じる世界に思えます。葉っぱの微細な構造の向こうに不思議に満ちた生命の世界が開け、人と自然の調和がさまざまな事象の精緻な連環の上に成り立っていることを学び、草原に転がって青空を見上げる子供の心で世界を感じることができれば、もう立派なシニア自然大学校卒業生です。「世界平和につながる小さなこと」は既に始まっているのかもしれない。

小学生理科実験教室

4班 太田 由紀子

昨年から西宮市公民館活動プロジェクトに参加し、小学生高学年を対象に理科実験教室を夫と二人で始めました。現在小学生高学年10名と毎月日曜日に楽しく理科の学習をしています。主人は会社で開発の仕事をしていましたが、教育関係は初めてなので戸惑うこともあり、私は高校で化学を教えていましたが、小学生は初めてなので元気のよい小学生を相手にわからないことも多いです。実験は物理を夫が、化学と生物を私が、主に担当しています。

実験教室の基本方針；自然に関心を持ち、探求心の強い子供を育てる。自然⇒人間⇒環境のつながりの中で、選んだテーマにまず関心を持ってもらい、疑問に誘導しながら、疑問を皆で考えて答えに気付かせる。

テーマの例；*空気、水、生きていくための要素に気付く。*気体？液体？固体？→温度が上がると固体⇒液体⇒気体に変化することに気付く。*エネルギーって？色々な種類のエネルギーに気付く。*電気エネルギーって？色々生活の役に立つことに気付く。その他；重さ、振り子、てこ、ゴム、磁石、音、光、波等 *植物の営み？植物の種族の保存、生命維持の仕組みは？

○今まで行った理科教室のプログラム；

*いろいろなものの重量を空気と液体の中で測ってみよう。

*電気の働きを調べ、簡単な実験をしてみよう。

*二酸化炭素を調べよう。

*簡単な電流計を作ろう。

*いろいろな水を調べよう

○今後の実験の予定；

*食品のビタミンCを調べよう。

*DNAを調べよう。

*てんびん、てこを調べよう。

*植物の光合成を調べよう。

*結晶を作ろう。

*寒天で電気分解しよう。

*指紋を調べよう。

子供たちは、好奇心旺盛で、友達と仲良く実験をたのしんでいるようです。理科が好きになって、自分の世界を少しでも広げてくれたらと思っています。

企画委員会の新たな試み

3 班 中澤 重文

企画委員会では今年度から新たな試みをスタートすることにしました。

きっかけは今年度の行事計画を策定する討議のなかで、企画委員が自らガイドをする「自主ガイド」を取り入れてはどうかという提案が出されたことです。この提案に賛同する委員の方が多数おられましたので、今年度から「自主ガイド」を試験的にスタートすることにしました。

ここで問題なのは、「自主ガイド」といっても、行き慣れたコースのガイドと、行ったこともない新しいコースのガイドとでは難易度に大きな差が出てくることです。企画の歴史文化散策は今まで行ったことない新しいコースで実施しますので、ガイドの難易度としては、高いハードルが予想されます。

私は「ならなぎ」で新コースの開発を担当していますが、新しいコースを開発する場合、コース設定やガイド資料の作成などの開発期間が半年～1年、会員の皆さんの勉強期間が半年～1年、合計で1年～2年かかることを想定しています。

想定外だったのは、2年前に開発途中で皆さんを案内した「ならまちコース」です。コロナでの活動休止もありましたが、「ならまち」は路地や寺社境内が非常に狭いため、三密を避けるためのコース設定が非常に複雑になり、足掛け5年もかかることになりました。

企画で実施する「自主ガイド」は、「ならなぎ」のように外部のお客さまを案内することを想定していません。歴史文化散策が単なるウォーキングになっては困りますが、やり方を工夫して、開発期間や勉強期間をいかに短縮して実施するかが重要なポイントになってきます。

まずは少人数の委員会別活動で「自主ガイド」を試験的に導入してみて、うまくいきそうな案件が出てくれば、来年度以降、歴史文化散策で本格的に導入していきたいと考えています。

今年度の委員会別活動（1日）は、当初計画では3回予定されていましたが、11月4日が万博NFの予備日と決定したため、下記の2回になりました。担当の企画委員の皆さま、「自主ガイド」の準備をよろしくお願いします。

<委員会別活動（1日）>

1月13日「五色塚古墳と明石大橋の見学」

3月31日「琵琶湖疎水歴史散策」

小学校3年生との環境体験学習の日

2 班 小畑 孝二

現在、三木山森林公園と有馬富士公園で、3年生を対象にした環境体験学習に関わっています。

活動日は、朝早くから出かけます。到着すると、危険な所や観察の要所の確認をします。

前日には、準備物の確認もします。スタッフの中には、花の拡大写真などを準備されている方もいます。私は、ルーペ、水、ホワイトボード、ロープ、色紙、かごなどの小道具を持っています。少しでも写真も持っています。

5月、とても元気な子どもたちとの出会いがありました。代表で挨拶ができるとてもおしゃべりが上手な子、樹木名を必ず聞いたがる子、思ったことをすぐ話してくれる子、後ろから静かについてくる子など、とても個性あふれる13人と自然観察に出かけることになりました。

「今日は、いっぱい触ってね!」と伝えて、葉っぱの触り方をデモしました。しばらくすると、触り始めた子どもたちから、生き生きした表情に変わっていききました。後半には、「これツルツルや!」と大きな声で教えてくれました。鋸歯についても記録を残して確かめていきました。クスノキのところでは、落枝を折って匂うと「ええにおい!」と答えてくれました。それから、山道をどんどん歩いていくと、樹木に覆われていたところで「森やな!」という声がありました。そこで野鳥の音がしたので、しばらくの間黙って森の音を聴き楽しみました。みんなとても静かでした。

展望台では、いつもヤッホーおじさんをしています。みんなで同じポーズをして、山に向かって叫ぶのです。声をそろえて「やっほ!」と短く、大きな声で。

次は、色紙を渡して「同じ色があったら教えてね。」と言うと、子どもたちは走ってあちこちに行きました。でも、同じ色はなかなか見つかりません。一番遠くに行った子どもが、「同じ色がある。」と言うので、みんなで走って見に行きました。それは、葉の裏でした。こんなに頑張ってくれていることに嬉しく思いました。

今、子どもたちが向き合っている自然とのふれあいを大切にした体験学習は、私自身も一緒に楽しむことができました。でも、やっぱり一番は、子どもたちからもらった元気でした。

弘法大師の道（吉野山から高野山）完歩

1 班 前田 長治



完歩の軌跡



金峯山寺蔵王堂(発) 金剛峯寺根本大塔(着)

男性 5 人、女性 3 人で「弘法大師の道」を完歩した。別名は「空海高野山発見の道」とも呼ばれている。「空海、少年の日、好んで山水を渉覧せしに、吉野より南に行くこと一日、更に西に向かって去ること兩日程にして、平原の幽地あり。名づけて高野と曰う・・・」と記されているとのこと。我々も二泊三日で計画した。

集合地は吉野大峰ケーブルの吉野山駅で 15 時に集合にした。金峯山寺蔵王堂を、遥拝した。中千本近くの民宿で前泊した。食堂から新緑が楽しめ、トイレも美しく女性達には、評価が高かった。

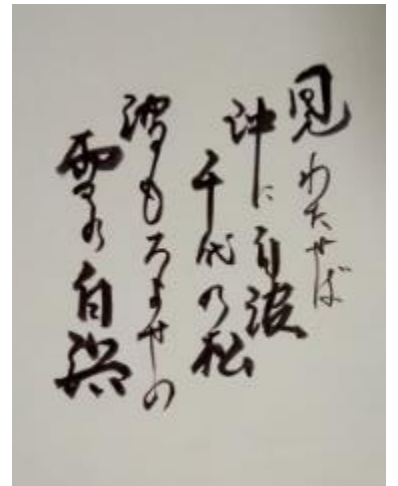
翌日は 5 時起き 6 時出発とした。青根ヶ峰(7:23)の手前に「弘法大師 高野への道」の石碑が新設されていた。四寸岩山(8:58)、足摺宿(9:26)、二蔵宿小屋(10:10) 近くにヤマザクラが 2 本で見事な満開過ぎ。小屋の使用は 5 月 1 日からの模様。ここで花見が出来る。トレランの白テープが随所にあり安心できる。大天井ヶ岳(1439m)に 11:23 に到着。本日のメインイベントは終了した。この山で南行は終わり、西に方向を変えることになる。目指すは小南峠である。小天井ヶ岳(12:35)、この辺から少雨となる。高山(13:47)、小南峠(14:23)、本日はここまで蔵王堂から 17.4km 歩いた。洞川下市線の車道まで下る。この下りが、疲れた足には辛い。洞川温泉に向かう。タクシー不可のため、約 1 時間掛か

かって宿舎に到着した。大雨にならず、二日目が終了した。

三日目は、小南峠から始まる。宿を 5:30 に出発した。少雨が残っていた。小南峠(6:30)に到着した。扇形山(7:14)、この辺りからガスが消えた。切抜峠(9:00)、黒尾山(9:51)、稲村ヶ岳が見える。思えばあまり景色が見えない。修行の感あり、ただ新緑とヤマザクラ、そして時折見える山々が慰めである。北アルプスの方が景色が楽しめて、張り合いがある。目的が違うと思い直す。

今回の目的は大師様に 1 ミリでも近づくことである。天狗倉山(11:14)に到着、ここまでが長く感じた。我々のグループでは、企画者がリーダーとなり先頭を歩くことが不文律となっているので、当然、私が先頭で歩いた。食事希望者は、18 時までに宿舎に到着して下さいとの連絡があった。これに遅れてはならないと、少し急いだ。高城山(12:36)、ここが 27.8km でほぼ中間点となる。武士ヶ峰(13:23)に到着。ここから林道となる。スピードがでるので、救われた気持ちになった。乗鞍岳(15:33)に到着。直前にロープ場あり。降ると林道に出会う。このまま林道を進んだ。天辻峠(16:11)に到着。今夜の宿である「星のくに」に電話を入れた。30分程度で宿屋に到着した。もちろん、夕食にあり付けた。食事は弁当の部屋食であった。これなら、少々遅れても問題がないとメンバーに目で確認した。風呂、ビール、食事で即睡眠した。

四日目は、宿を 6 時過ぎに出発した。天辻峠(6:50)に到着した。本日は、距離が若干短いので、余裕がある。メンバーは遅くなっても「特急こうや」に乗ると、遅れ覚悟の発言となった。なぜなら、まだ、20km が残っている。出屋敷峠(7:43)でウサギに出会う。先頭の特権である。舗装林道を横切る。白石岳(8:27)、セト山(9:32)、今井(9:53)、紀和峠(紀和隧道上 10:10)、高塚 900m(10:37)、城本(11:22)、30 分程度で未舗装林道に出た。林道はありがたい。なんと言っても歩き易い。この林道は私設である。13 時ごろに、舗装林道に出た。ここからは、舗装林道とアスファルトの車道を歩くことになる。先ずは、金剛峯寺にお参りし、根本大塔に向かう。やっと到着した。14:51 であった。56.6km を 26 時間 25 分で完歩した。極楽橋駅 16:21 発「特急こうや」で帰阪した。



もろよせ（諸寄）は、山陰海岸ジオパークで私の故郷です。
京都高瀬川の高瀬舟は諸寄の造船所で建造された舟だそうです。



えんどう豆の皮を剥きながら遊んでみました。莢には1粒～8粒まで入っています。
4粒～6粒が多くありました。
（名前の変化）豆苗→絹さや→グリンピース→えんどう豆（テレビのクイズ番組より）



家庭菜園で収穫出来ましたが全て1本の木です。
さすがに食する事は出来ませんでした。

スズタケの 20 年かけての 全国一斉開花

4 班 遊上 眞一



イネ科スズタケ属のスズタケは、120 年に一度全国一斉に 20 年かけて開花し、その後枯れてしまうと言われています。

2005 年に 埼玉県秩父市で開花が確認され 2014 年に 東北の八幡平へと北上。2022 年には秋田市へと 20 年かかって全国の地域で開花しているようです。私が 2017 年 5 月 21 日に 六甲山を登っていると山頂付近一帯で スズタケが一斉開花しているのを見ました。



そして 2 ヶ月後に六甲山に登った 同年 7 月 26 日には、スズタケは 全て枯れていました。



5 年後の今年、六甲山頂付近では スズタケの稈が、根元からはずれて 倒れていました。

5 月 16 日 溪流の岩場に咲く サツキ



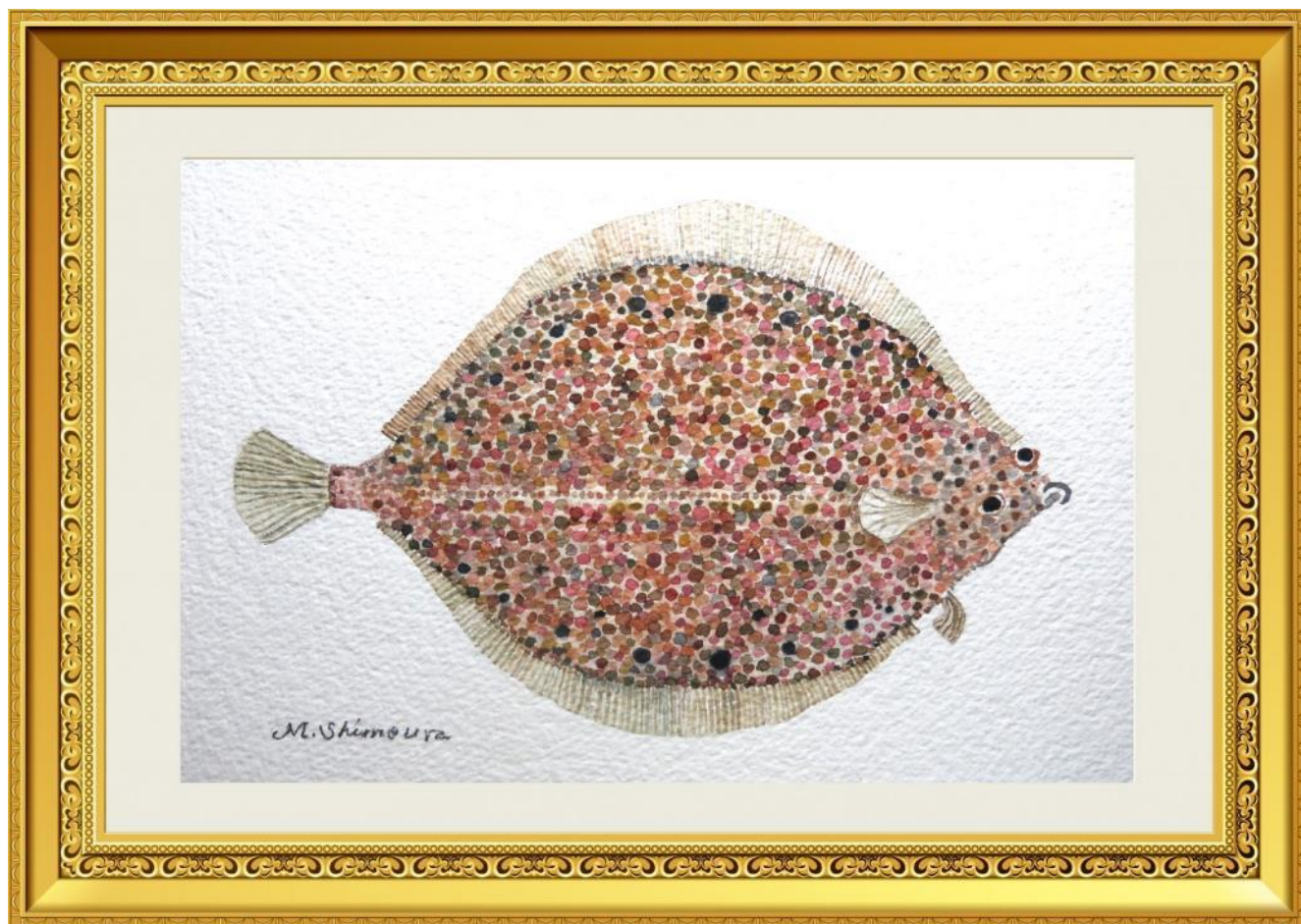
廃線跡の武庫川溪谷にある最大の高座岩。 その割れ目（丸印）にサツキが根を張り 花を咲かせている

絵画コーナー

A Fish

1 班 下浦 美代

<http://sizontobunka.jp/kaiga/index6.html> クリックすると拡大します



川柳コーナー

3 班 竹山 秀規

シニア川柳 3 選（つぶやき付き）

- ああ定年！明日から上司は 我が女房
（ようやく自由の身になった途端、新たな
社長が現れた！）
- 断捨離だ！ついに来たのか わが身の番
（家のゴミ出しはきちんとするよ、でも俺だけは
放り出さないで！）
- この俺に 何時も暖かいのは 便座だけ！
（とうとう来たか終着駅、でも一か所居場所を見
つけたぞ）



俳句

1 班 池田 清

- ・ 草笛の音色を競ふ通学路
- ・ ハンモック仮寝の筈が夜中まで
- ・ 張り替へし網戸に風の百倍す
- ・ 噴水の一気に天を目指しけり
- ・ 本堂に座して涼しき阿弥陀かな



4 班 山上 恵子

俳句

- ・ 身勝手の過ぎたる大国春嵐
- ・ 春の憂ひ世界の隅へ拡がりぬ
- ・ 肥沃なる地のウクライナ春遠し



川柳

- ・ 独裁者一人に世界が壊される
- ・ ウクライナ聞けば涙と沸く怒り
- ・ 軍事費が右肩上がりで止まらない



新人紹介コーナー

①：氏名 ②：所属 ③：講座生の期 組
④：住所 ⑤：他の所属 ⑥自己紹介

	①：上田 和明 ②：1 班副班長 ③：27 期緑組 ④：枚方市 ⑤：「交野自然の杜クラブ」「京とおつみ自然文化クラブ」		①：太田 由紀子 ②：4 班副班長 ③：8 期星組 ④：西宮市 ⑤：
⑥山田池公園のガーデニング・ボランティアをしています。この会にシニア大学の先輩が居られ、植物の不思議に目覚めさせていただき、緑組・高等科と進みました。植物は元より、生命の神秘、宇宙誕生の謎など興味あります。		⑥よろしくお願いします。日本画で山の風景や山の花を描いています。	
	①：大野 眞理生 ②：4 班副班長 ③：27 期花組 ④：四條畷市 ⑤：「ネイチャー学志山歩会」		①：奥 久美子 ②：2 班副班長 ③：27 期緑組 ④：摂津市 ⑤：「バードカービングの会」「大阪の歴史遺産を探访する会」
⑥ いろんな山を歩きながら森の木々や野生の植物を楽しんだり、里や山のもつ歴史にも関心があります。知らないことが沢山あると思います。よろしくお願いします。		⑥ 毎日、自宅近くの堤防を歩きながら草花や野鳥に親しんでいます。自然が好きというだけで、わからないことばかりですが、よろしくお願いいたします。	
	①：堰口 義明 ②：2 班副班長 ③：26 期緑組 ④：和泉市 ⑤：「京とおつみ自然文化クラブ」「大阪の歴史遺産を探访する会」		①：谷殿 美佐恵 ②：1 班副班長 ③：23 期風組 ④：東大阪市 ⑤：「いこま棚田クラブ」
⑥ 19 期高等科に入って新型コロナのおかげで講座は 19 講座のみのため、20 期高等科に再度入学し、植物や自然のことが面白くなり、もっと知りたいと思うようになりました。楽しく、観察等しますので宜しくお願いいたします。		⑦ 植物・昆虫・岩石・色々なものに興味があります。山城探索、仏像鑑賞等も好きです。先輩方から多くの事を学ばせて頂きたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。	
	①：原 司 ②：3 班副班長 ③：27 期緑組 ④：豊中市 ⑤：「地球環境『自然学』講座」「ソラードの会」		①：藤原 敦子 ②：3 班副班長 ③：27 期緑組 ④：守口市 ⑤：「工作同好会」「わくわく探検隊」「大阪の歴史遺産を探访する会」
⑥：緑組から高等科と進んできましたが、まだまだ初心者レベルです。いつかは少しでも社会に貢献できるような実力をつけたいと願っていますが、もともとのおんびりしていたいほうなので、周りの方にはじれったいかもしれません。気長にお付き合いいただければありがたいです。		⑥ 身近な草花や野鳥観察で好奇心を持つようになりました。「自然を観察し、歴史と文化を知る」フィールドワークを広げて、楽しみたいと思います。よろしくお願いいたします。	



53 号も皆様のお陰をもちまして発行することが出来ました。ありがとうございます。次号も引き続きご協力のほどよろしくお願いいたします。 広報委員会